

花王株式会社との 「Mizuho自然資本インパクトファイナンス」の契約締結について

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）は、花王株式会社（代表取締役 社長執行役員：長谷部 佳宏、以下「花王」）との間で、シンジケーション方式による「Mizuho自然資本インパクトファイナンス」（※1、以下「本商品」）のアレンジャーに就任し、融資契約を締結しました。

本商品は、TNFD等の自然資本関連の枠組みやガイドラインを参考に、独自に開発した評価手法を用いて、みずほ銀行がお客さまのネイチャーポジティブ経営（※2）に関する姿勢や取り組みを評価し、融資を行うサステナブルファイナンス商品です。

みずほ銀行は、ファイナンスごとに設定するKPIの継続的なモニタリングやエンゲージメント（建設的な対話）を通じて、お客さまによるネイチャーポジティブ経営の促進と自然資本へのインパクト創出（保全・回復を含む）を支援します。

なお、評価手法を含む本商品のフレームワークは、株式会社日本格付研究所（JCR）より、環境省の「インパクトファイナンスの基本的考え方」に適合する旨の第三者意見書を取得（※3）するとともに、国連開発計画（UNDP）の専門家の助言を受けて開発しています。

花王は、ESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」において、「快適な暮らしを自分らしく送るために」「思いやりのある選択を社会のために」「よりすこやかな地球のために」の3つの柱と、それらを支える基盤としての「正道を歩む」のもと、2030年までに達成をめざす「花王のコミットメント（目標）」を設定するとともに、重点的に取り組む19のテーマ「花王のアクション（施策）」を定めています。なかでも、中期経営計画「K27」の基本方針のひとつである「持続可能な社会に欠かせない企業になる」に向けて、2040年までにプラスチック使用量の削減とプラスチック再資源化による「ごみゼロ」の実現をめざし、資源循環型社会の構築に取り組んでいます。

みずほ銀行は、花王の自然資本に対する取り組みを下記の点において高く評価し、KPIとして、花王が関与したプラスチック再資源化率、渇水地域の製造拠点で個別に設定した水管理目標（取水関連）を達成した拠点数比率、ライフサイクルCO2排出量（絶対量）削減率を設定しました。

みずほ銀行による評価のポイント

- ✓ 製品原料の多くを自然の恵みに依存し、製品の使用後は環境へと排出される事業特性を踏まえ、本業のサプライチェーン全体において、生物多様性の保全と回復、再生を重視した幅広い取組を推進している。
- ✓ 森林破壊・土地転換ゼロ（DCF）の推進やプラスチック包装容器の回収・再資源化、ネイチャーポジティブビジネス領域の検討等においては、ステークホルダーとの連携を進めている。

〈みずほ〉は、気候変動と密接に関連する自然資本の保全・回復を重要な課題の一つに掲げており、各企業の自然資本に関する取り組みへの貢献を通じたインパクトの創出が、お客さまの中長期的な企業価値向上につながると考えています。お客さまとともに、インパクトと収益の創出による好循環を実現し、社会・環境課題の解決と企業価値の向上をめざします。

※1：「Mizuho 自然資本インパクトファイナンス」の商品概要にかかるウェブサイト

https://www.mizuhobank.co.jp/corporate/sustainability/natural_capital/index.html

※2：ネイチャーポジティブ経営

環境省、農林水産省、経済産業省、国土交通省の連名で策定されている「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」によると、「自社の価値創造プロセスに自然の保全の概念を重要課題（マテリアリティ）として位置づける経営」と定義される

※3：JCR のウェブサイト

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

以 上